「七夕」　ロマンチックなイメージが強い七夕ですが‥!?

子どもの頃、願いごとを書いた短冊を笹につるし、色とりどりの折り紙で七夕飾りを作った思い出は、だれにもあるのではないでしょうか。また、大人になって、織姫と彦星が七夕の夜だけ再会できるということからロマンチックな一日というイメージを抱いた方もみえるのではないでしょうか。七夕というと、織姫と彦星のお話が有名ですが、他にも由来となるものがあるようです。

七夕は五節句（ごせっく）の一つで、中国の唐の時代にはすでに制度として整えられており、日本へは奈良時代に伝わって宮中行事になったと言われています。七夕は、旧暦の７月７日に行われていました。新暦とは１か月ほどズレがあり、現在の８月７日頃ということになります。明治に新暦に変わってから日本の七夕祭りは、７月７日や旧暦の時期の８月７日、あるいはそれらの前後に開催されています。実は、この七夕の由来には、「織姫と彦星の伝説」が由来という説以外に、「棚機（たなばた）」という神事が由来という説、「乞巧奠（きこうでん）」という中国の行事が由来という説があります。

七夕の歌に「五色の短冊 私が書いた♪」という歌詞があるように、短冊の色にはそれぞれに意味があります。緑（青）＝木（徳を積む、人間力を高める）、赤＝火（父母や先祖への感謝の気持ち）、黄＝土（信頼、友人知人を大切にする）、白＝金（義務や決まりを守る）、黒＝紫（学業の向上）‥、このように、短冊に願いごとを書くときは、５色の色と意味に沿った願いごとを書くと良いとされています。

一年に一度だけ織姫と彦星が逢えることから、ロマンチックなイメージが強い七夕ですが、本来は「裁縫が上達するよう願う」行事だったようです。また、短冊の色（七夕飾り）にそれぞれ意味があることがわかりました。みんなの願いが天に届くといいですね。

「 たなばたさま 」　（作詞：権藤はなよ）

笹の葉さらさら	のきばに揺れる	笹の葉が家の軒端でかぜにさらさらと揺れている
お星様きらきら	金銀砂子	夜空に星々が金銀砂子のようにきらきらと輝いている
五色の短冊	私が書いた	五色の短冊に楽しい気持ちで願いごとを書いた
お星様きらきら	空から見てる	きらきら光り輝くお星様が空から見守っている

「笹の葉 さ～さら♪」、子どもの頃は、歌詞の意味がわからないままに歌うことが多いと思います。子どもたちと歌うときは、歌詞の意味を教えてあげるといいですね。

❤ Happy Birthday　７／３‥松本 遥人君